

三重大学ビジョン2030

MIE University Vision 2030

三重の力を世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学

新興感染症、気候変動、食糧・エネルギー危機、国際紛争など、世界は様々な問題、課題に直面しています。我が国においては、急速な少子高齢化による人口減少に起因する地域の活力低下が、環境問題と共に大きな社会問題になっています。このように凄まじいスピードで社会が変化するなか、様々な問題・課題を乗り越え、豊かで幸せな新しい社会を拓いていくには、すべての人びととあらゆる組織がより良い社会の構築に向けて共創して行くことが求められます。知の拠点である大学は、その核の一つとして重要な責任を担っており、大学への期待はますます大きくなってきています。

このような状況下、三重大学は従来の大学運営と教育研究組織を根本的に見直し、今後の活動目標となる「三重大学ビジョン2030」を策定しました。本ビジョンは、令和4年（2022年）から令和12年（2030年）までを見据え、教育・研究・社会貢献・医療の各領域で、何を目標にして、それをどのように達成していくのかを示し、教職員がワンチームとなって大学改革に取り組む拠りどころとして取りまとめたものです。

三重大学にとって最も大切な基本理念は、国際社会との繋がりを深め、地域社会との連携を強化しながら、様々な地域・分野で活躍できる人材育成と、世界トップレベル及び独創的な研究を遂行することです。地域社会との共創の場として、また、地域創生のハブ機能を持つ高等教育機関として発展して行くことが重要になります。大学が有する「知」、「スキル」、「多様な繋がり」、「地域との価値共有」をもとに、ダイバーシティを尊重した教職員が一体となって力を最大限発揮することによって、大規模大学とは異なる、特色ある大学へと成長

を遂げ、地域社会を発展させる原動力になることを目指します。

教育においては、従来から重点を置いてきた「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」に「行動する力」を加えた、総合的な「生きる力」を修得することによって、地域や世界の諸課題を発見・解決する人材を育成します。さらに、環境・SDGsや防災・減災に関するリテラシーをはじめ、DX（デジタルトランスフォーメーション）、AIの活用や数理データサイエンスなど、文理横断的に活動し続ける人材を、行政や企業、住民の皆さんにご協力頂きながら育成したいと考えています。

研究では、世界と伍するナンバーワン研究、地域に根差したオンリーワン研究を中心に、カーボンニュートラルへの転換を図るなど、地域イノベーションに繋がる研究を展開し、それらの成果を社会実装することで、地域共創、新しい地域づくりを先導する役割を担っていきます。

医療においては、三重県内の最後の砦として、三重大学医学部附属病院が高度な専門医療を展開すると共に、地域が必要とする医師、看護師などの医療人の育成にも努めます。また、今後特にその整備と活用が必要とされる医療DXを推進して行くことで、全国的に見ても先駆的なDX医療人材の育成と地域医療のスマート化を進めます。

このように、三重大学は、世界と繋がる地域共創活動に真摯に取り組み、未来を拓く教育研究拠点として世界が注目する地域共創大学を目指します。

三重の力を世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学

1

教育

地域・社会・世界とのつながりを通して、
行動する力を引き出す教育

- 行動する力で地域をけん引する人材の育成
- 新たな価値の創出マインドを持つ人材の育成
- 地域の社会人に学びの機会を提供するリカレント教育の拡充

2

研究

社会共創を支える多様で独創的な研究

- 世界トップレベルを目指す特色ある先端研究
- 社会課題解決を目指す応用研究
- 未来を拓く多様な基礎研究
- 分野を超えた横断的大学院

3

社会貢献

三重モデル地域創生

- 先端技術の社会実装とそれを活用した新たな社会価値の創出
- 地域課題解決・地域文化発展
- 安心・安全・快適な社会の形成

4

医療

先端医療の実施と医療人育成による
地域医療の発展

- すべての県民への質の高い医療の提供
- 医療人の育成
- 最先端医療の研究推進

教育未来創造会議の提言において、未来を支える人材像について、「好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていくことのできる人材である」と示されています。

三重大学生の典型的な気質は、素直で協調性が高く、堅実で温和であるとされ、産業界をはじめ広く社会で認められてきました。この三重大学生の良い側面をさらに伸ばしつつ、創造性、主体性、積極性も重視し、地域・社会・世界とのつながりを通して、「行動する力」を引き出すことも教育のビジョンとして設定しました。

現在、三重大の教育目標としている「4つの力」を「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」に「行動する力」を加えて総合的な「生きる力」として再構成し、ダイバーシティへの理解と、世界的視野を備えてグローバルに活躍できる人材を、国際交流や、地域の諸課題と向き合うことで育成します。

そのために以下のような内容を実施していきます。

- 1) 行動する力で地域をけん引することができるように、地域拠点サテライトも教育の場として、地域貢献活動へ積極的に参加することを奨励し、地域とのつながりをより深める教育を実施していきます。
- 2) 北勢サテライトを機能強化し、工学系等の教育研究組織を整備するとともに、地域イノベーション学研究

科等による分野横断的教育組織（学環や学部）を速やかに整備します。

- 3) SDGsの掲げる「誰一人取り残さない持続可能な社会の実現」という課題を意識しつつ、日本社会や地域社会の抱える課題の解決のために、主体的に考え、行動しうる人材、また地域発のイノベーションや価値創造の担い手となりうる人材の育成に向けて、STEAM教育や文理融合教育、アントレプレナーシップ教育、キャリア教育を実施するとともに、社会人への準備プロセスとしてプロジェクト授業の導入などを通じて社会の問題を自ら発見し、解決に導く力を養成する教育を実施していきます。
- 4) これからの大学には、社会で活躍できる若い人材を育成することに加え、激しく変化する社会のニーズに応えるため、社会人の知識やスキルをアップデートするためのリカレント教育が強く求められています。そこで三重大は、新たな知識やスキルを獲得したい社会人からの要望に応えるため、学部、大学院という既存の教育組織に並立した、堅実なりカレント教育組織を2030年までに立ち上げます。
- 5) 大学に進学する18歳人口が減少していく中で、自ら行動する意欲のある人材を地域から獲得するために、高大連携を通して入学前履修の推進や「探究」の活動を利用した入試を実施し、三重地域圏に貢献できる人材を育成します。

地域・社会・世界とのつながりを通じた行動

生きる力

感じる力

感性 共感
心身の健康に
対する意識

考える力

幅広い教養
専門知識・技術
論理的・批判的思考力

コミュニケーション力

表現力(発表・討論・対話)
リーダーシップ・
フォロワーシップ
実践外国語力

行動する力

主体性
問題発見・解決力
社会人としての
態度・倫理観自らの専門性を基礎とし、
地域・社会・世界の課題を発見し、
新たな価値の創造を通して、
課題解決できる行動的人材

社会の激変

新産業の勃興

三重地域圏の活力

災害対策

社会からの要請

SDGs

カーボン
ニュートラル

- ・国際化、多様性理解、DX、STEAM教育の推進
- ・地域をけん引する人材の育成
- ・新たな価値の創造マインド育成
- ・リカレント教育の充実

教育組織の充実・整備

- ・地域創造教育センター、リカレント教育センター等の教育支援組織の整備
- ・北勢サテライトを機能強化し工学系等の教育研究組織を整備
- ・地域イノベーション学研究科等を核とした分野横断的教育組織（学部または学環）の整備

地域・社会・世界とのつながりを通じた学び

世界に誇れる特色ある先端研究、地域に根差したオンリーワン研究、社会課題の解決につながる応用研究を実施し、さらに未来を拓く多様な基礎研究を育みます。また、これらを実現するための研究組織や大学院の組織改革を行います。基礎研究と応用研究を両輪として、人が幸せに暮らせるための社会共創を支えます。

世界に誇れる特色ある先端研究成果を生み出します。三重大学では、半導体、次世代電池、次世代高速通信、グリーンイノベーションや循環器画像診断などで世界に誇れる先端研究成果を発信してきました。これらはいずれも環境や健康、あるいはそのインフラを確立するなど持続可能な社会を目指す先端研究です。これらの研究を発展させ、工学、農学・生物資源学、医学などの分野で卓越した研究センターを設置し世界に誇れる先端研究を行います。同時に、三重県を中心に紀伊半島の自然や地域文化の考究、さらに多文化共生の地域づくり、持続可能な地域エコシステムなど、地域に根差したオンリーワン研究を行います。

産官学が共創して地域課題の解決を目指す研究やそれを支える知財・特許の創出に取り組みます。みえの未来図共創機構とその下で共創プロジェクトを実施する地域共創展開センターを設置していますが、それを発展させ

環境や健康などの課題を中心にして医療DXによる健康増進、四日市等の産業集積地のカーボンニュートラルや異業種連携、グリーンイノベーション、防災、教育DX、観光資源の有効活用などの研究成果の社会実装を目指した応用研究を行います。また、工学系等の教育研究組織を整備します。

未来を拓く多様な基礎研究を育むため、研究支援共同利用施設の拡充、外部資金獲得の支援、若手研究者の支援の拡充などを行い、研究業績の発信を強化します。また、論文解析データ等のエビデンスに基づいて研究支援を実施するマネジメント体制を確立します。さらに理系大学院の連携強化、文理融合型の博士課程整備、国際化、大学院生の就学支援やポスドク受け入れなど、イノベーションを促進する教育研究体制を整備します。

これらの取り組みにより、社会共創を支える三重大学の多様で独創的な研究を進めます。



①世界トップレベルを目指す 特色ある先端研究

- 世界トップを目指す先端研究
 - ・半導体、次世代電池、グリーンイノベーション等
- オンリーワン研究、特色ある研究
 - ・忍者、海女、鯨類、気象等
- 新たな研究分野の発掘、育成



②社会課題解決を目指す応用研究

- 研究展開組織の整備
 - ・みえの未来図共創機構等による産官学連携プラットフォーム活動の強化
 - ・カーボンニュートラル、次世代産業、スマート・持続的農林水産業、健康、食、観光、教育DX等
 - ・三重県と連動した防災・減災研究・教育
- 工学系等の新教育研究拠点の整備

研究を牽引



三重大学が未来に拓く
研究による社会共創

研究力の基盤

- 多様な基礎研究を育む支援
 - ・研究基盤推進機構
 - ・外部資金獲得支援
 - ・若手研究者支援

■エビデンスに基づく研究支援マネジメント

③未来を拓く多様な基礎研究

- イノベーションを促進する教育研究体制
 - ・理系大学院の連携強化
 - ・文理融合型博士課程の整備
 - ・国際化、大学院生の支援・ポスドク受け入れ

④分野を超えた横断的大学院



三重県は、中京圏や関西圏に近い北中部地域と都市圏から離れた南部・東紀州地域とでは人口や産業の構造が大きく異なっており、各地域が抱える課題は、まさに日本全体が抱える課題でもあります。

三重大学は、この日本の縮図とも言える三重県全域を教育・研究フィールドとし、ここを拠点に世界に伍し、地域に根ざした幅広い教育・研究を展開します。展開にあたっては、三重大学の特徴である地域拠点サテライトを活用し、みえの未来図共創機構にある地域共創展開センターの3部門を軸に、URA等を充実し、地域との協働により連携・共創を進めることでスパイラルアップを図り、地域協働によって課題解決を目指す「三重モデル」を加速させることで、成果を社会に還元し地域創生に貢献します。

三重大学の社会貢献において、地域をさらに発展させる上で「多様な基礎研究の成果に立脚した先端技術の社会実装とそれを活用した新たな社会価値の創出」は重要な課題と考えています。「産業の未来図」部門では、今まで三重大学で行ってきた種々の先端的な研究に加え、情報化基盤整備における次世代通信分野に対するDXを含めた地域社会が求める研究開発や、世界が脱炭素社会に向けて進む中、カーボンニュートラルを含む新たなエネ

ルギー循環を考えた循環型社会モデルの形成・構築のための研究開発などに対し、社会実装を進めます。社会実装にあたっては、産学官民の連携をさらに進め、地域社会とともに理解を深めることで大学の意識改革を図ります。

「日本の地域モデルの未来図」部門では、少子高齢化とグローバル化、地球温暖化の進展など、地域社会をとりまく環境が大きく変化する中で、各地域が直面する課題やニーズを収集、把握し、三重県が持つ農林水産資源や特色ある文化などの魅力・潜在力をさらに掘り起こし、学生の地域参画、教育課程の解決などを含め、産学官民が協働して医・食・住のさまざまな課題解決に取り組むことで、人々がわくわくする社会の実現を目指します。

人々が社会経済活動を行う上で不可欠な課題として「安心・安全・快適な社会の形成」があげられます。三重大学は、三重県とともに地域の防災・減災に取り組んでいましたが、この活動をさらに発展させ、「持続可能社会モデルの未来図」部門において、医学・医療DX、感染症対応、災害時の医療・看護、若者の防災意識向上、国土強靱化に向けたインフラ長寿命化対策などに対する取り組みを進め、持続可能な社会の実現を目指します。

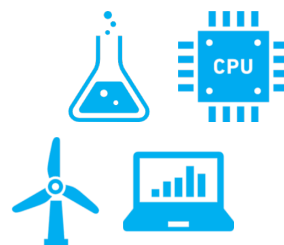
地域との共創、協働による「三重モデル」を三重から全国へ、世界へ

みえの未来図共創機構

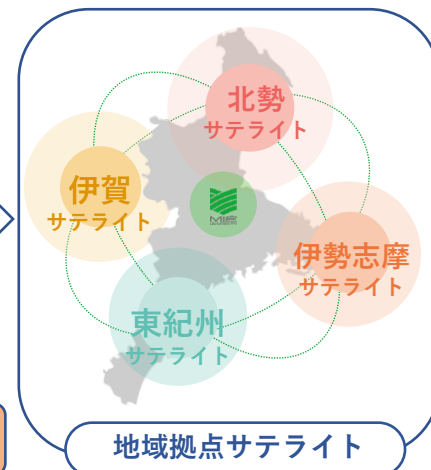
産業の未来図

先端技術の社会実装とそれを活用した新たな社会価値の創出に取り組めます

- ・ 先端的研究の社会実装に向けた産学連携
- ・ 次世代通信・デジタル技術の活用
- ・ 新産業転換への取り組み
- ・ 循環型社会の形成・創出



地域創生・社会実装



地域共創展開センター
におけるプロジェクトの推進



日本の地域モデルの未来図

地域の豊かな資源と特色ある文化を生かした地域課題解決・地域文化発展に取り組めます

- ・ 地域文化研究の発信
- ・ 農林水産業の諸問題の解決
- ・ 学生の参画による地域活性化
- ・ 教育課程の解決
- ・ 医・食・住の課題解決

持続可能社会モデルの未来図

暮らしやすい社会を目指した安心・安全・快適社会の形成に取り組めます

- ・ 医学・医療DXへの取り組み
- ・ 災害時の医療・看護
- ・ 防災意識の向上と人材の育成
- ・ 国土強靱化に資する教育研究

三重大学医学部附属病院は県内唯一の特定機能病院として高度な医療を安全に提供し、県内で国内最先端の医療が受けられる体制を発展させ、先進的な医療の成果を三重から世界に発信します。

医療教育機関として卒前・卒後教育をさらに充実させ、地域の多様な患者に医療を提供できる医師と看護師を育成するとともに、研究マインドを持つ若手医師を育てます。また、多職種連携を重視して県内のメディカルスタッフや医療事務人材の育成をすすめ、タスクシフト・シェアを推進して次世代の働き方改革を実現します。

県民全体に質の高い医療を効率的に提供するため、麻酔医、救急医、2次救急に対応できる総合診療医・内科医などを増加させ、県全体の診療科偏在を是正して医師の適正配置に努めます。

医療DXを推進して県民がPHRによる24時間健康把握やAI受診推奨等を利用できる体制を整え、三重大学と県内の医療機関・薬局を結んでスマートホスピタル化します。予防医学分野においても医療DXと情報提供を推進して、県民の健康寿命延伸を図ります。

三重大学医学部附属病院関係病院長会議やみえの未来医療会議などの地域連携プラットフォーム機能を向上させ、

地域医療連携法人制度の活用等を検討しながら、地域医療資源の有効活用に向けた改革を行います。

三重大学医学部附属病院の経営改善を推進し、先端医療の充実と広報強化、県下病院との連携強化によって、県民が県内で治療できる体制の強化を図ります。

医学・医療の推進のための臨床研究を充実させるため、臨床研究開発センターのデータサイエンス支援機能の強化に向け、全学組織化を検討します。

感染症危機管理人材育成センターを発展させ、三重県や保健所等への人材育成・派遣と共に、県内の感染症対策の中核としての役割を果たします。また、災害対策推進・教育センターの拡充、行政機関等と連携した災害医療の強化や救急医療のDX化と集約化を進めて県民がより安心できる体制を構築します。

